

# 姫路市医師会報

○姫路市医療介護連携会議への取り組みについて  
～「繋ぐ」ことから始めます～

No. 371 平成 26 年 3 月 1 日発行：視点

おばあさんが病院の外来にやってこられました。元々、一人暮らしですが、休暇で実家に戻ってきた息子さんも一緒です。どうやら肺炎のようで、入院が必要になりました。病棟で看護師から、普段はどうしていますかと聞かれましたが、息子さんはさっぱり要領を得ません。かかりつけの先生は？介護保険は？ケアマネは？と、矢継ぎ早の質問にも全く答えられません。ベッドでフーフー言っているおばあさんが、自分の鞆を指さしました。そこには一冊の手帳があり、「姫路市医療介護連携手帳」と書かれていました。手帳を開けるといろいろなことがわかりました。おばあさんは高血圧で近所の診療所に時々通院していました。少し認知症があるようで、診療所の先生が地域包括支援センターに声をかけて、ケアマネが決まり、デイサービスにも行かれ、訪問介護も受けておられました。いつもの様子がすっかりわかり、かかりつけの診療所の先生や、介護の担当者入院したことを伝えることができました。ほどなくして退院が決まり、病院での退院前カンファレンスに、医療、介護の関係者が集まりました。手帳があったので連絡は簡単でした。日頃、顔と顔の見える関係を築いている顔なじみの皆さんが集まりました。この時には息子さんはおられませんが、退院後の医療、介護のことについて十分な連携が行え、おばあさんには安心して退院してもらえました。

現在姫路市医師会では医療連携に多岐にわたって取り組んでいるところです。医療連携パスを通じた連携、各病院・医師会医療連携室の取り組み、医療機関情報システム、急変時の受け入れシステム、などがあります。今後も様々な医療の連携を行って参ります。一方、介護については主に姫路市、姫路市保健所が中心になって、多数の協議会が設立されたり、研修会が開催されています。医師会、医師会医療機関も参加して、連携に関する活発な活動がなされています。

しかしながら、医療と介護との間での連携が必ずしも密に行われているとはいえません。たとえば、ケアマネージャーが医師に連絡を取ろうとすると、我々医師はそうとは考えていなくとも、ケアマネージャーにとってはハードルが高く、遠慮をされがちです。また、医師にとっても患者さんの医療に関する情報が介護スタッフに十分に伝えきれず、あるいは理解してもらえず、話が一致し

ません。医療、介護の関係者が参加する協議会の意見交換の場でも、立場の違いからか、互いに足らずのことを追求したり、余計なことは不要であるとして、話がかみ合わない場合がよくあります。

医療に携わるものも、介護に携わるものも、ともに患者さん、市民のみなさんの役に立ちたいとの願いは変わりません。なんとか、医療と介護の二つの歯車がうまく噛み合う方法がないものかと考えておりました。

H25年8月に社会保障制度改革国民会議からの報告書で、「医療と介護の連携と地域包括システムの構築」が提言されました。病院完結型から地域完結型へ、医療から介護へ、病院・施設から地域・在宅へと方向性が示され、地方行政と地域医師会が協力して、地域包括システムを作り上げていくべきとされています。

また姫路市からも、医療については専門性の高い医師会が、介護については主に行政が、主体となって、市民のために医療と介護の連携を進めていきたいとの申し出をいただきました。行政から全面的に協力いただけることは、非常に心強いものがあります。今回の取り組みのもっとも大きな特徴でもあります。

H25年9月に、姫路市健康福祉局、保健福祉推進室、保健所の方々と姫路市医師会が第1回目の会合を持ちました。この時の協議で姫路市と姫路市医師会が協力して、医療介護の連携を推し進め、地域包括システムの構築に取り組む決定がなされました。その後、月に1～2回の準備会で、姫路市に「姫路市医療介護連携会議」（以後、連携会議）を設立することとなり、現在、準備を進めているところです。

連携会議に参加していただく機関としては、医療と介護に関わる、姫路のすべての機関を予定しています。スタートのメンバーとしては、下記の機関をお願いしています。

姫路市、姫路市医師会、姫路市地域包括支援センター、姫路市地域自立支援センター、姫路市介護サービス第三者評価機構、姫路市歯科医師会、姫路市薬剤師会、兵庫県看護協会西播支部、姫路訪問看護ステーション連絡会、兵庫県栄養士会西播磨地域、兵庫県理学療法士会中播磨ブロック、兵庫県作業療法士会中播磨ブロック、兵庫県言語聴覚士会中播磨ブロック、姫路市・西播磨介護サービス事業者連絡協議会、兵庫県介護支援専門員協会姫路支部、姫路市社会福祉協議会、姫路市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会、姫路市老人福祉施設連盟、兵庫県介護老人保健施設西播支部、グループホーム連絡協議会、姫路市病院連携室会議。

なお、地域包括支援センターの役割が、今後大きくなってきます。姫路市では、地域包括支援センターを再編し、機能強化に取り組んでおられます。医療

機関にとっては、その機能や役割が、今一つ十分に周知がなされておらず、今後の課題の一つです。

年度が変わった、早い時期に、上記の機関に集まっていただいて、キックオフミーティングを開催します。医療につきましては私ども医師会で把握できますが、介護に関しては多くの職種が関わっているため、すべての機関が網羅できていません。協議が進む中で、さらに、多くの職種の方々に声をかけさせていただきます。最終的には市民のみなさまにも会議に参加していただくつもりにしています。

さて、実際に何を行っていく会議となるでしょうか。

一つの柱として「姫路市医療介護連携手帳（仮称）」の作成を行います。冒頭にありましたようにこの手帳があれば、医療にとって介護の情報がわかり、介護にとっても医療の内容がわかります。必要なときは連絡先が一目瞭然です。

実は、この手帳は数年前に日本プライマリケア連合学会に出席したときに、京都府乙訓市医師会が長年、市内の多職種の取り組みへの検討をなされた結果、手帳を作成して成果を上げておられる発表を聞いて参考にさせていただきました。乙訓市医師会からは、そのまま使ってもかまわないとの許可はいただいたのですが、少し、というよりも一所懸命に工夫をして、姫路市版を作成するつもりです。

連携会議の中にいくつかの部会を作ります。この部会において、それぞれの領域で役立つ手帳の設計をしていただこうと考えています。また、この手帳を作り上げる協議の中で、各機関が連携を深めていくことも、期待しています。

既に個々の機関では、医療介護の連携のための協議会等があり、いろいろな取り組みが行われています。それぞれの取り組みを生かして、「繋ぐ」ことを行っていただきます。連携会議の発足当初はお互いの活動内容を知らせていただき、お互いの機関同士が連携できることから、始まればよろしいかと考えております。協議が進みましたら、新しい提案もさせていただきます。何ができるかはこれからに期待しております。

連携会議の取り組みがうまく進めば、数年後には姫路市全体で医療介護の連携に取り組む大きな組織となり、すばらしい地域包括ケアシステムを構築していくことができます。この稿の最初に示したようなスムーズな連携ができることと信じております。

連携会議は、この会報が配られる段階では、まだ準備中です。どこまでできるかなどの不安もありますが、できあがった時の姿を想像しますと、期待にワクワクする気持ちが勝っています。今後の協議によっては、紆余曲折があると

と思いますが、患者さんのため、市民のみなさんのための取り組みを進めて参ります。会員の先生方には、連携会議の取り組みを知っていただき、御意見を賜りたいと考えています。医師会まで、お伝えいただければ有難いです。先生方の連携についてのご協力を、引き続きよろしく願いいたします。